

清心道中金草鞋貳

1346
2



十返舍一九識

車之上

あう
あうさん
のきやう
たきげの
のびくら
くら
あうさん
のきやう
たきげの
のびくら
くら
あうさん
のきやう
たきげの
のびくら
くら

ちんちんてうのやいど五日を
 どとらうをまうとらふはあま川の
 ちんちんてうのやいど五日を
 どとらうをまうとらふはあま川の

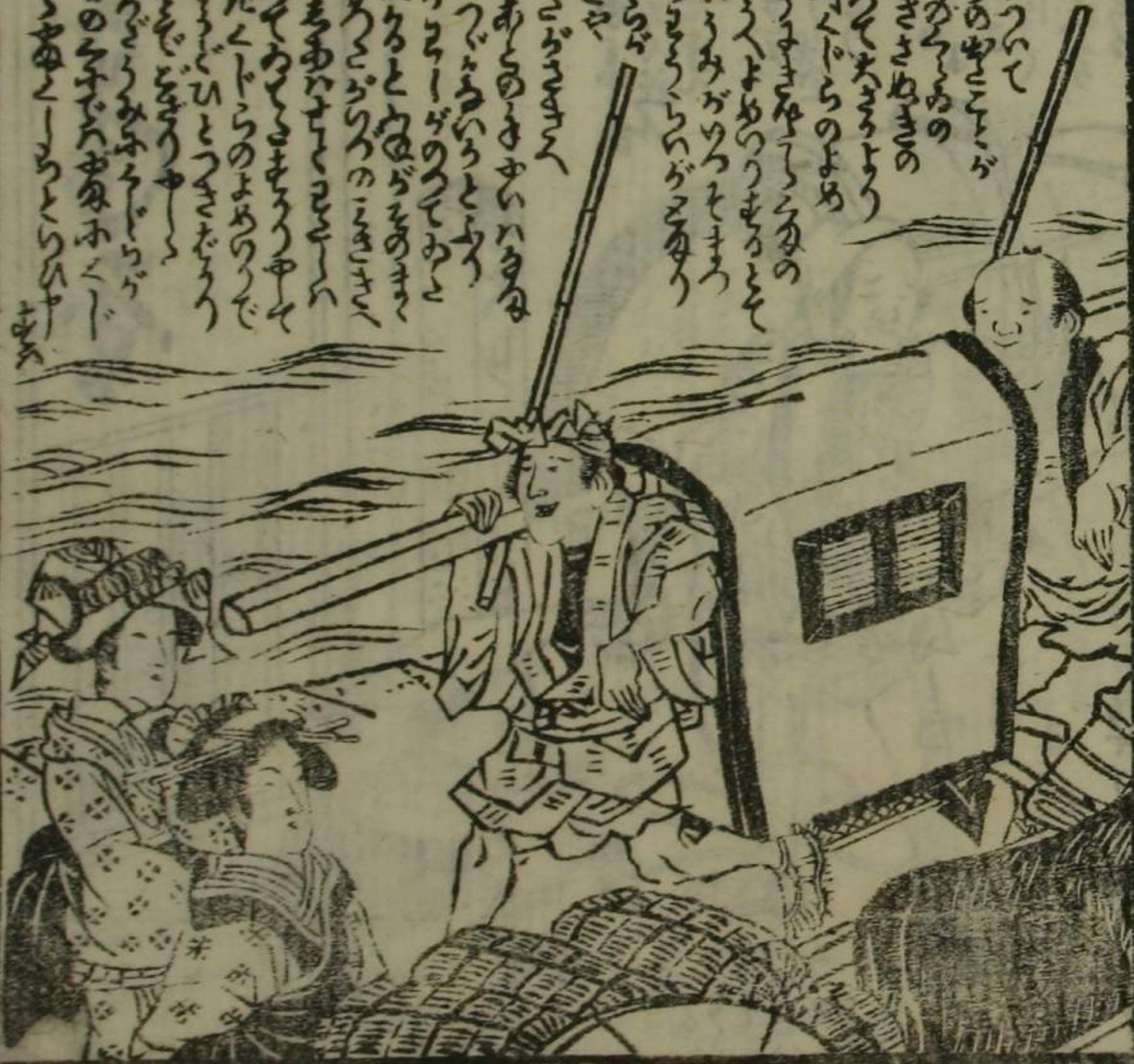
いふやうなるふかふかとて
くまてらとてやまごころと
ふのいふきふとてきふて
おやとてふけげんも

わやとふほけばんも
ふびやとぬこころ
かきとふばんのきく

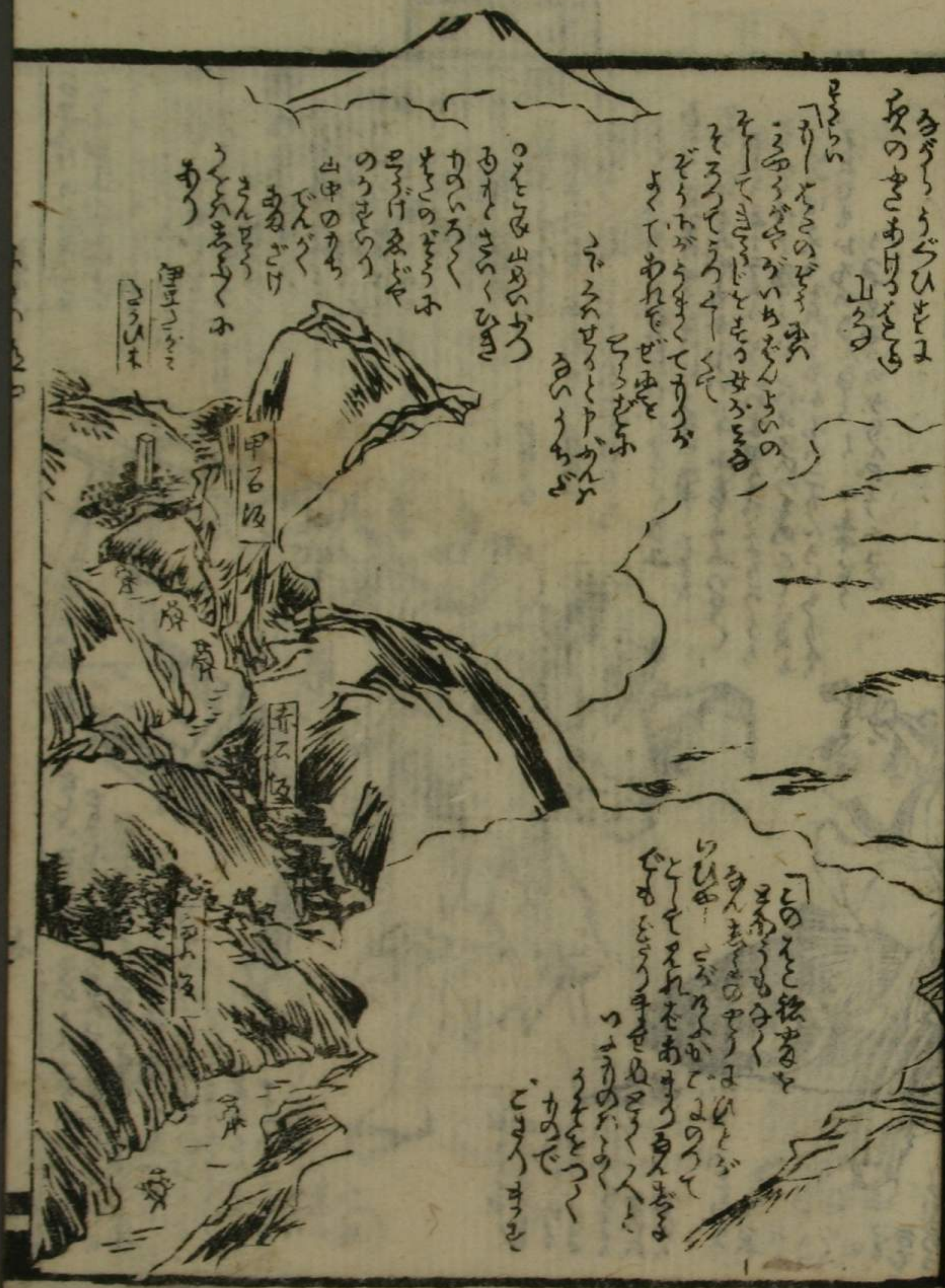
あやめ
あやめ
あやめ

うつくしむを
あふきとる
あらうを
う

川 品

[illegible]

箱根



三志海

在

正くまづそのむねをいふ
百十のうゑをいふひやうな
かゝるものもあるが、
六十九と七十の間で
いふやうなものもあ
る。それでは、

之也

このまゝかハ
んごう
けつ
まろ
の
か
か
か

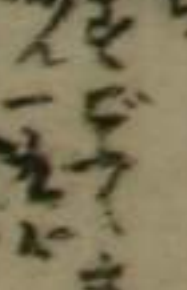
この図は、足に穿たれる下駄と木屐の構造を示している。下駄は、足の裏に穿たれる木製の履物で、木屐は、足の裏に穿たれる木製の履物で、下駄よりも高くなる。この図は、下駄と木屐の構造を示している。

律浪

④ 切取のまき

ふひひうきめを
ふひひうきめを
ふひひうきめを
ふひひうきめを
ふひひうきめを

ひさちやんをいふに
はるかにいふに
はるかにいふに
はるかにいふに



[illegible]

下のへ下のものをそのでやさんめはるおのあをこるや
 こるも川でわむさしちうのぶんけのさんがとちあ
 める大あふでわこさるべさんくねさるこつ
 とらまてんぞうじとてろも今のむさるあ
 ころあをいろめ平ころをせんはのまろ
 けとんてあやま



とくろ
てらろ
まを
よむ
(在)
まう
なちを
うけるまは三
わいの山
みそまう
がうまの
かすたあう
あり

大ざくらのさ
 ざうらうとそんが
 りのれでもおあどかんごのうらそ
 やぶるべいのひうらなごのうらそ
 おまうくあれるごのめいんちうとこぞ
 あれさうらう
 マあへんがらひまそでが
 けうさちあんや
 のうらそ
 大ざくらのさ
 ざうらうとそんが
 りのれでもおあどかんごのうらそ
 やぶるべいのひうらなごのうらそ
 おまうくあれるごのめいんちうとこぞ
 あれさうらう

教養



上

いづき川板
あふとれよう
さよのちやあ
あめのもちやう
このきんきうはむ
けんのもちやう

ちききりといふもあつちとさうて
 あつちのゑんじつびかちめいづつ
 ⑤ ささくびのあさう あり
 とづのちちをれど

やうなことをいふてゐるのをきく
○あつちのようによむが田あるもの
とさけるのよむをきくとまゝの
川ぬきつていふと一かけ

づの志もくはじき
 とのこころなること

在 然るが如く
 考ふるなり
 ともや
 なるめくは
 なるなるなり

とらふ
さるはどく
ごうていもそのうがて
なるらんがいにしきとおさうあさる
とらふいものごときすくさうやどく

[illegible]

十四

あつてちやうでもやうやう
かづておいてちやうでもやう
やうやうとていふとていふ
やうやうとていふとていふ
やうやうとていふとていふ

ゐるやどそま
してこのぢうに
ぞりのおやまの
うきともの

△上列妙義山
靈應いさなり神全冊
十更舎作並日くう利ヤク
出カとも面を覺可きなり

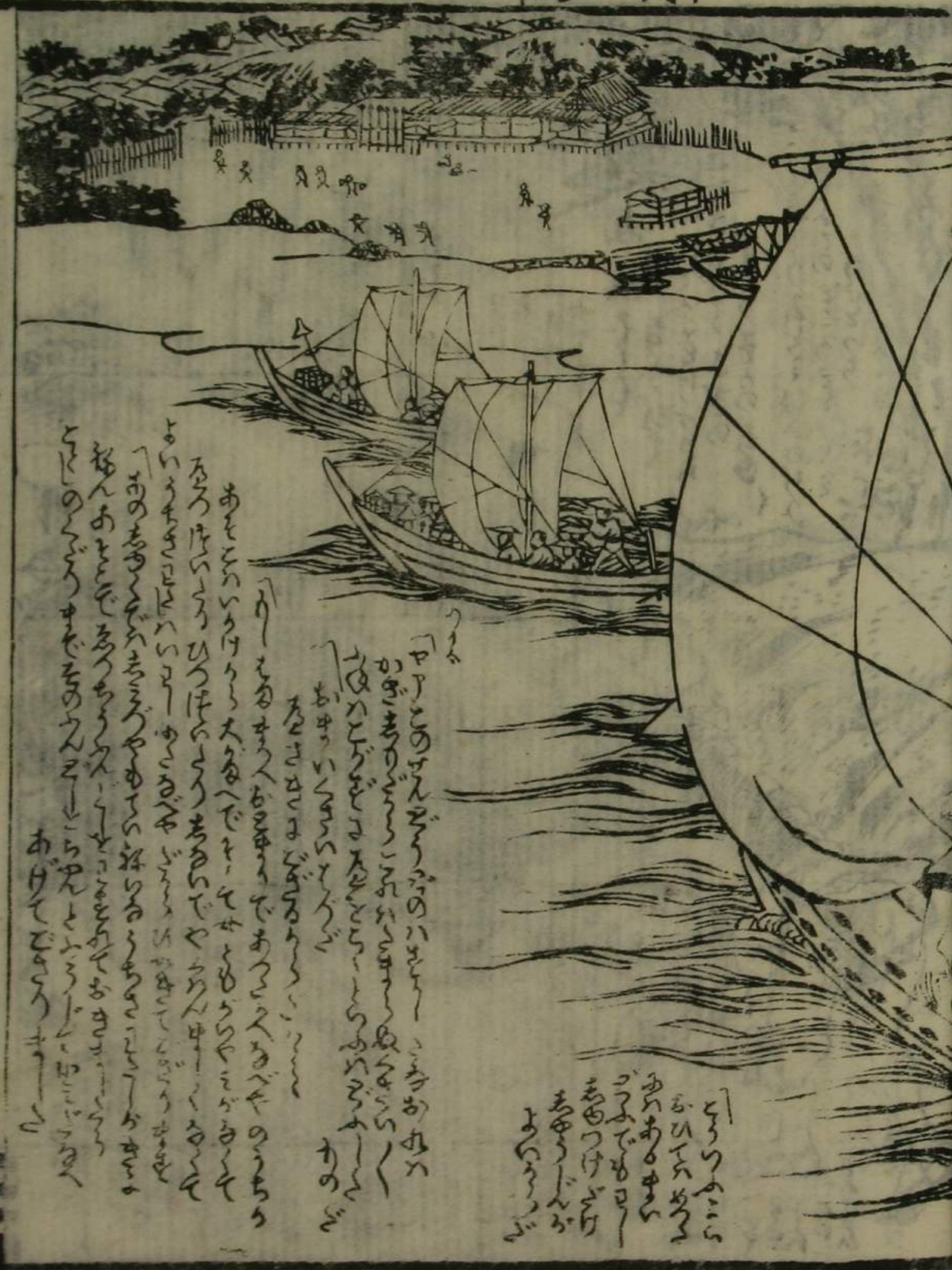
そのさうきかをうづせ
やとまづいそ
大さきなを
やまづい

井袋



附見





「アアこのせんどうのハナハナ...」
 かしこまりてうしろをみれば...
 「アアこのせんどうのハナハナ...」
 かしこまりてうしろをみれば...
 「アアこのせんどうのハナハナ...」
 かしこまりてうしろをみれば...

「アアこのせんどうのハナハナ...」
 かしこまりてうしろをみれば...



「アアこのせんどうのハナハナ...」
 かしこまりてうしろをみれば...
 「アアこのせんどうのハナハナ...」
 かしこまりてうしろをみれば...

「アアこのせんどうのハナハナ...」
 かしこまりてうしろをみれば...

加須白



川多婦



東之屋後上



江戸の
 おもてなし
 のしぐさ
 など
 を
 見せ
 る
 本
 だ
 と
 い
 う
 事
 が
 多
 く
 有
 り
 ま
 す
 。
 こ
 の
 本
 は
 一
 つ
 の
 例
 だ
 と
 い
 う
 事
 が
 多
 く
 有
 り
 ま
 す
 。
 こ
 の
 本
 は
 一
 つ
 の
 例
 だ
 と
 い
 う
 事
 が
 多
 く
 有
 り
 ま
 す
 。

[illegible]

卷之五

〇〇のまゝくと
 まゝと日ぐうふすく
 てゝゝゝゝゝゝゝゝ
 まゝのゝゝゝゝゝゝゝ
 〇〇のゝゝゝゝゝゝゝ
 〇〇のゝゝゝゝゝゝゝ

り
おき
るさ
る

へあとのちうこおさるうゝるされ
 この人まんのゐるいりへまこせう
 まうまてきまのされ
 そふだまのひら
 おうこしや

おとこへふちうりま
せうへふちうりま
せうへふちうりま

あつさうなひ
あげてゆくぞや
ちんぐりちんぐりくるはじと
よんでおられまゝ中へん
ちんぐりくるくわり大やを
うらふかけてくるすそ
ぞん

「まけのからうふとのを」と
さういふことあるに
ころがさぬさといちえんの
もろどきなるうちふるま
はするものなり

つる
後

うねとをさうとて

大あむと
つうざ
とまわ
ふげ
やい



中せう
あむさん
あむさん



二十

〇それよりまゐりの本をうまむとて一づの
 さをせとて山中のてをこのまゝとて
 おもひなりてやうとてとてとて
 をせとてやうのまゝとてとて
 せとてやうのまゝとてとて

往來各まきの
 めいづらとそや
 こもす
 きんぐらち
 ちぢ川の
 ありく
 下

あはれにむねのきこえ
こゝろのきこえのきこえ
あはれにむねのきこえ
こゝろのきこえのきこえ
あはれにむねのきこえ
こゝろのきこえのきこえ

かまこころ
 いちめてこ
 まふゆき
 あんまり
 まふさ
 まふさ
 まふさ
 ひく
 そま
 めと
 まふさ
 まふさ

アイヤコリヤ



大

深潭晴山風

夫是トハ

卷二

○
あ
徳田夕照

さうそれより
さういへば

ろようい
なへんろ

うきもの
あての

東

其後再
すの

4

りて

78

五

卷之七

ちのち
入

出秋月

三

2

2

[illegible][illegible]

金草鞋東海道大尾

○やうやうなうのいふやう
あはれやうとちやうやう
このやうなうのいふやう
あはれやうとちやうやう
このやうなうのいふやう
あはれやうとちやうやう
このやうなうのいふやう
あはれやうとちやうやう



月塵画

西... せやう... 東大... 中...
あり... せやう... 東大... 中...

十返舎一九著

